

# 「意思決定支援」とは何か 考え方の整理



「意思決定支援」は、  
今日の障がい福祉や障  
がい福祉サービスにお  
ける、欠くことのでき  
ない最重要キーワード  
の一つです！

令和5年度 虐待防止委員会・身体  
拘束適正化検討委員会資料  
令和5年6月19日  
熊本市手をつなぐ育成会

# 1 意思決定支援とは何か？

『障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン』  
(厚生労働省)

## 「意思決定支援」とは、

自ら意思を決定することに困難を抱える障がい者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、

- ◆可能な限り本人が自ら意思決定できるよう支援し、
- ◆本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、

支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、

- ◆最後の手段として本人の最善の利益を検討する

ために、事業者の職員が行う支援の行為及び仕組み」  
を言います。

# 1 意思決定支援とは何か？

「意思決定支援」は、今日の障がい福祉や障がい福祉サービスにおける、**欠くことのできない最重要キーワード**の一つです！

意思決定支援は、**虐待、人権擁護**とも大きく関係



自分で決める！ 自分の意思を表明する！

## 基本原則

### ① 自己決定の尊重とわかりやすい情報の提供

- 本人の意思確認ができるよう、あらゆる工夫を行う
- 本人が安心して自信を持って自由に意思表示できるよう支援

[ex] 選択肢を絞り、絵カードや具体物を手がかりに選べるようにする。

# 1 意思決定支援とは何か？

## ② 不合理と思われる決定でも、**他者の権利を侵害しないのであれば尊重する**

- 意思決定の結果、本人に不利益が及ぶと考えられる場合は、結果は最大限尊重しつつも、リスクを予測し対応を検討。
- リスク管理をしすぎて、制約的になり過ぎないように注意。

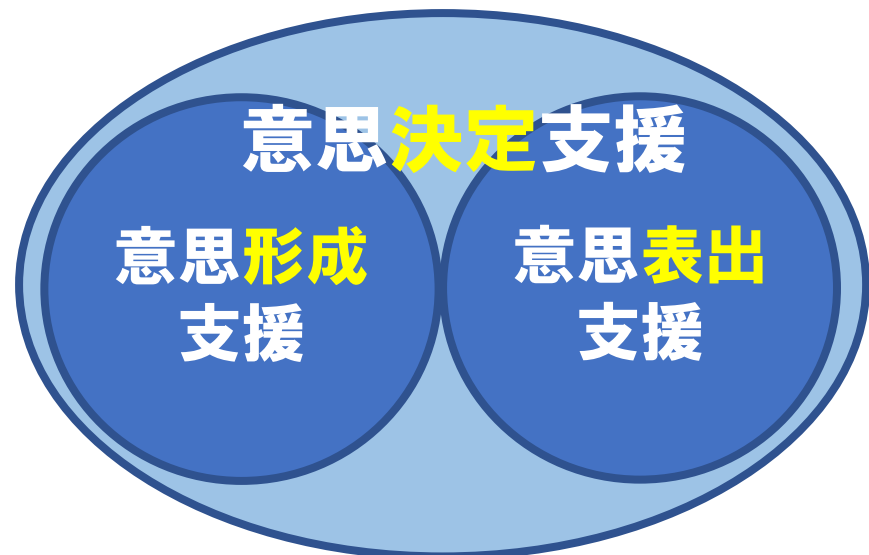
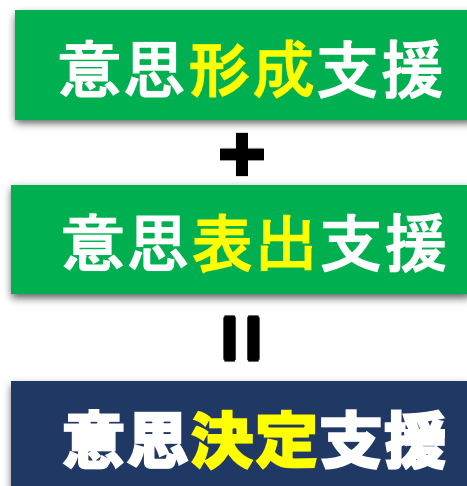
## ③ 本人の自己決定や意思確認がどうしても難しければ、関係者が集まり、意思を推定する **《最善の利益の判断》**

- 本人をよく知る関係者が集まり、日常生活の場面や事業者のサービス提供場面での表情や感情、行動に関する記録などの情報、これまでどのような生活を送ってきたのか、人間関係はどうだったのか等、様々な情報を集めて根拠を明確にしながら**本人の意思を推定**。

## 2 意思決定支援を考える

生活のあらゆる場面で本人の意思が最大限に反映された選択を支援することにより、障がい者が、保護の対象から、権利の主体へと生き方の転換を図るための支援。

- ①「**意思形成支援**」：本人の意思が形成されるために、理解できる情報の提供と経験や体験の機会の提供
- ②「**意思表出支援**」：言葉だけでなく様々な形で表出される意思を汲み取る



## ■意思決定支援の必要性（知的障がいの人たちの状況）

### ○幼い頃から、周りが先回りして何でもしてしまう

- ・経験や体験、失敗の機会もないままに大人になってしまう  
（※自販機が使えない知的障がい者も少なくない）

### ○テレビや新聞、雑誌、インターネットなどからの情報を得ることがとても難しい。

- ・食べたいもの、行ってみたい場所、観たい映画、やりたいことや楽しいことなどの夢や希望、意思がつかれない。

### ○言葉を上手に使えないor言葉がない。

- ・自分の気持ちを伝えることがとても苦手。周りの人からも理解されない。
- ・「何も分からない、何もできない、意思はない」と周りに思われる。

### 3 意思形成支援とは、

- ① 幼少期から、経験や体験を通して様々な情報を得ることで意思がつくられる過程を支援。
- ② 意思決定支援の重要な要素。r 前提とも言える支援。

#### ■ 意思形成支援の留意点

- ① 人の環境は整っているか？
  - ・信頼感と安心感のある支援者の存在が必要。
  - ・家庭や施設で、日常的に安心感を持てる生活があることが重要。
- ② 様々な経験を積む機会があるか？
  - ・文字や写真などの情報からイメージを膨らませる(想像する)ことが苦手。
  - ・幼少期からの日常的な経験、体験が重要。

### ③様々な情報が提供されているか？

- ・選択肢として用意される情報は、理解できることが必要。

⇒言葉・文字・絵やイラスト・写真・実際の見学や体験など、あらゆる方法で伝える支援が重要。

- ・自分で情報を得ることは非常に難しく、支援者の情報提供に頼るしかないことを理解した上での支援が重要。

### ④幼少期から年齢に応じて選ぶ機会が提供されているか？

- ・選ぶ力を育てるための経験や体験が提供されているか。

- ・失敗を避けるために、大人になるまでor大人になっても、周り(親や支援者)が選ぶことに介入(干渉)することこそが、意思形成の大きな阻害要因となる。



## 意思形成支援の具体例

- ルビや口頭での丁寧な説明などで、情報を分かりやすく提供
- 写真、動画、絵、マーク、模型等も用いて情報を提供
- 様々な経験や体験のための活動プログラムを用意
- 食べたことのないものを初めて口にする機会をつくる
- 給食に選択メニューを取り入れる
- アンケートを行い、本人の希望メニューを給食に取り入れる
- 旅行や外食などでホテルや旅館、飲食店など様々な施設利用の体験をする
- 施設のイベントなどで多くの外部の方と接する
- 絵画や音楽、映画鑑賞など文化的活動を体験
- サービス利用の際に建物や設備、日中活動を見学
- サービス利用のための施設利用体験の機会をつくる

## 意思形成支援の具体例

※できるだけ、  
①の視点を排し、  
②の視点を重視！

### ① パターナリズムの視点

※パターナリズム：強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益のためとして、本人の意志は問わずに介入

□ 干渉やパターナリズムは、本人の意思形成にとって大きな障壁となる。

### ② エンパワメント（ストレングス）の視点

□ 誰もが意思を有するということを前提に、本人の意思を最大限に表出するための支援。

## 4 意思表出支援とは、

- ①形成された意思を言葉や他の方法で表出できるように支援
- ②日常的に表出されている様々な意思を、支援者が見落とさずに気づき、汲み取る支援

### ■意思表出支援の留意点

- ①本人が意思を表出・表現できるような支援がされているか？
  - ・本人が意思を伝えられる機会を設けているか？
  - ・絵や写真、マーク等のカードの使用などの工夫があるか？
  - ・支援者が本人の意思を汲み取る姿勢を持っているか？
  - ・いつでも、どんなことでも気軽に話せる環境があるか？
  - ・「本人活動」「利用者自治会活動」など、エンカウンターグループとして、意思を表出できる活動があるか？

## ②表出されている意思に気づく支援者であるか？

- ・言葉だけでなく、表情や態度、雰囲気などの僅かな変化を支援者が敏感に察知できるか？

(知的障がい者が、言葉や文字で相手に伝わるように意思を表出することは非常に困難。)

## 意思表出支援の具体例

- 本人から発せられた言葉の意図や真意を会議等で検討
- 言葉のない方の健康状態や精神状態を常に意識しながら支援に当たる
- 声の調子や雰囲気、行動など僅かな変化から気持ちを探る
- 表情や目の輝き、雰囲気から喜怒哀楽を察する
- 顔色や体全体の雰囲気からバイタルチェックする

- 写真や絵、マーク、模型などを用いて選択してもらう
- 利用者の自治会活動や本人活動を支援し、本人が意思を表明できる場や機会をつくる
- 施設内に模擬投票所を設けて、公的選挙のためのシミュレーションを行う
- 分かりやすい資料を作成し、福祉制度などを本人が学ぶ機会を用意する
- 意見箱など、本人の施設に対する要望や希望を常に受け付ける体制を整える



## 5 意思決定支援を考える際の重要な視点

### ①意思決定支援は、知的障がい者の重要な**人権擁護の支援**

⇒知的障がい者には、障がいの特性や置かれた環境により、意思形成や意思表出、意思決定という本人の意思が反映されるための支援がより多く必要。

### ②意思決定支援は、知的障がい者に対する重要な**合理的配慮**

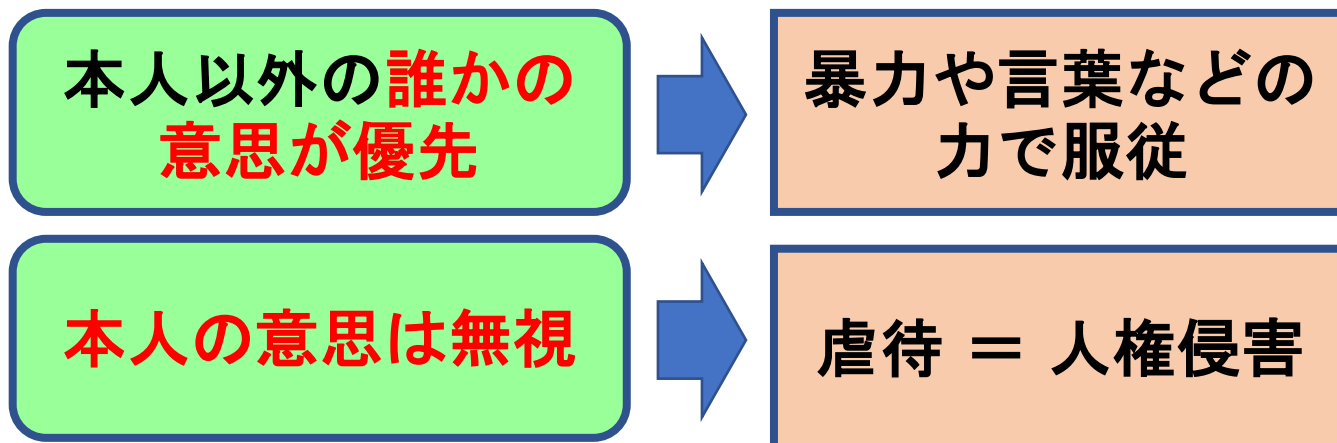
⇒多くの知的障がい者が抱える、意思形成や意思表出など意思決定の難しさという「**社会的障壁**」を除去するための**必要な支援**。

### ③意思がつくられる支援、意思を汲み取る支援を行い、**意思決定を支援する施設や事業所には、そもそも虐待は存在しない。**

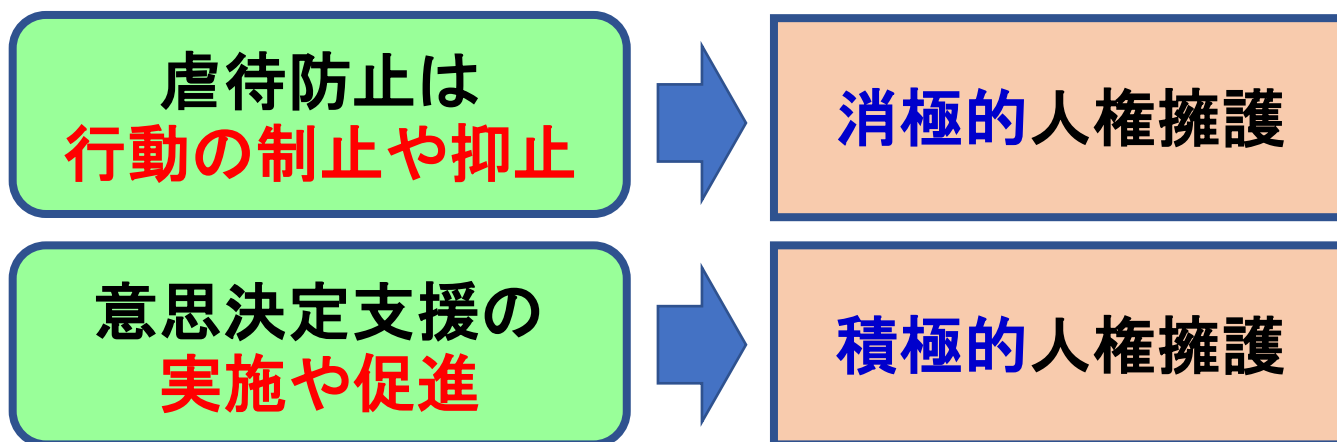
⇒意思決定支援は人権擁護の実践そのもの。

## 6 意思決定支援は、虐待、人権擁護とも大きく関係

■ **虐待**：本人の意思が無視された生き方を強いること



■ **人権擁護**：本人の意思が反映された生き方を保障すること



# 7 意思決定支援を、本人の側から見る

## ① 自分で選ぶ・決める、自分の考えを持つ

### ■ 自分で考え、行動できる力を育てる

- 誰のものでもない自分の人生を、  
「主体的」に生き、「豊か」に生活するために、自分に関することを、  
自分で考える、選ぶ、決めることができる力をつける。

### ■ 自分で選ぶ・決める力をつける。

- そのためには、幼少時期、学校時代から、十分な学習と、家庭を含めた日常的な選ぶ・決める経験を積み重ねる。
- 何でもないちょっとしたこと(物)を選ぶ・決めるの経験の先に、自己決定や自己選択がある。

[ex.]スーパーでお菓子を買う。洋服を選ぶ。……。

- 失敗する経験も、非常に重要！ ※周りが先回りをしない！



## ② 自分の思いを周りに伝えられる

■伝えたいという気持ちを持つ。

- ・そのためには、自分が認められている、受け入れられているという安心感、安心できる環境が大事。

■それぞれの状態や段階等に応じて、自分の思いや考えを周りに伝える力をつける。（言葉や文字などの表現力）



**※意思決定（選ぶ・決める・表出する）の力は、**

家庭や学校教育、幼児期や学齢期でこそ、大切にし、  
培うべき力！